

- DR0211N(W) DR0211N(K) DR0211N(S) DR0205N(W) DR0205N(K)
- DR0212N(W) DR0212N(K) DR0212N(S) DR0206N(W) DR0206N(K)
- DR0213N(W) DR0213N(K) DR0213N(S) DR0207N(W) DR0207N(K)
- DR0214N(W) DR0214N(K) DR0214N(S) DR0208N(W) DR0208N(K)
- DR0209N(W) DR0209N(K)

#### 安全上のご注意

\* この器具の取付工事は、電気工事士の資格が必要です。必ず電気工事店に依頼してください。

#### ⚠ 警告 発熱、焼損、火災、感電の原因となります。

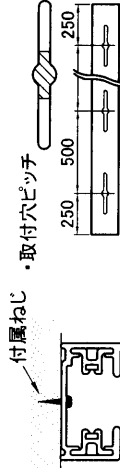
- 結線は、適合電線の被ふくをゲージに合わせてむき、確実に奥まで差し込んでください。
- 曲がつた電線及び、より線は直接端子に接続しないでください。
- 定格電圧、定格電流を超えて、施工、ご使用しないでください。
- 屋内専用です。周囲温度が40℃以下の場所でご使用ください。暖房装置の近くや、水のかかる場所、油などの付着しやすい場所、湿気の多い場所、粉塵、硫化水素、アンモニアガスなどの腐食性ガスのある場所には取付けないでください。
- レール全長が4mを超える場合は、接地工事を行ってください。
- 本体とフィードインキャップ、ジョイント類の接続は確実に行ってください。
- 商品を改造しないでください。

#### ⚠ 注意 発熱、焼損、火災、感電、落下の原因となります。

- 終端部には、必ずエンドキャップを取付けてください。
- レールを切断する場合は、手のこをご使用ください。電動工具をご使用になりますと絶縁樹脂が溶けることがあります。
- 切断後はカエリ、切粉などを取り除いてください。
- パイプ吊りの器具やパイプ吊りのレールは、クローラーなどの吹出し口の近くに取付けないでください。(器具やレールが振れるおそれがあります。)
- ライティングレールⅢ形、Ⅳ形とライティングレールV形のレール及びジョイントの互換性はありません。

#### ■ 本体の取付方法

- 直付の場合
- 付属のタッピンねじを使用して天井面の野縁などにしっかりと取付けてください。
- 取付穴の間隔は下図のように端部から250mm、中間部は500mmです。取付穴の中央部(下図の斜線部)では取付けないでください。



#### ■ パイプ吊りの場合

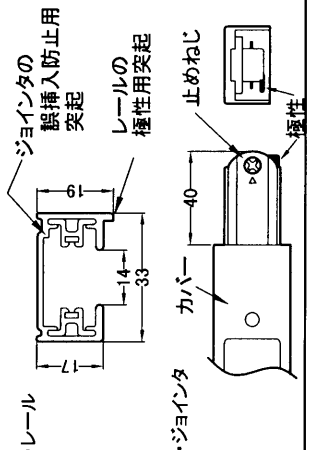
- 別売のハンガー (DR0282N(W),(K),(S)), パイプ吊具 (DR0313(W),(K),(S)) 等をご使用ください。
- パイプ吊りの間隔は1mが標準です。最大間隔は1.5mです。
- 埋込の場合
- 別売の埋込枠 (DR0260N(W),(K),(S)) をご使用ください。
- フィードインキャップR0261N(W),(K),(S)), エンドキャップ (DR0262N(W),(K),(S)) は、埋込専用です。

#### ■ レールへの給電及び電線接続と回路の分割

- レールへの給電は、フィードインキャップ、ジョイント(ミニジョイントを除く) から行います。
- 電線の接続は、ストリップゲージ12mm(10~14mm)に合わせ被ふくをむき、端子に確実に奥まで差し込んでください。
- 電源用端子は、φ1.6mm、φ2.0mmの銅単線専用です。より線には絶縁付棒状圧着端子(DC9300)をご使用ください。
- 電源の接続は、レール本体の極性用突起側(凸部側)を必ず接地側としてください。
- 接地線の接続は、ジョイントの接地端子(⊕表示部)に巻締め接続または、圧着端子を使用して接続してください。
- ジョイント部で回路を分割する場合は、内部の電線を端子よりはずしてください。
- 電線のリリースは、リリースボタンを押しながら電線を引き抜いてください。

#### ■ 本体とジョイントの接続方法

- レール相互を接続する際は、レール本体の極性を合わせてください。
- 本体とジョイント(ミニジョイントを除く)を接続する際は、極性を合わせてください。
- ジョイントをレールに差し込み、止めねじを確実に締めてください。(給電をしないで接続のみの場合は、カバーを外す必要はありません。)



ご使用中に異常が生じたときは、お使いになるのをやめ、電源を切ってお買いあげ販売店(工事店)にご相談ください。なお、ご相談されるときは器具の形名及びお買いあげ時期をお忘れなくお知らせください。

この施工説明書は お読みになったあと必ず保管してください。